



東日本大震災 被災者支援 北海道民医連ニュース

2011.4.1

避難所生活のストレスで体調不良に

大船渡市チームからの報告

午前9時、赤崎避難所での活動開始。地震以来20日以上も入浴できなかった78歳の女性は足浴と清拭で「お風呂に入ったようです。生き返りました」と喜んでいただきました。赤ちゃんを含め3人の子どものお母さんはストレスが溜まり、体調不良で受診。赤ちゃんのいる部屋は6世帯23名が避難生活を送っています。日中は家の片付けなどに出かけていて部屋にいる人は少ないが、夕方になり皆が戻ってくるとプライバシーがありません。お母さんは不慣れた環境で3人の乳幼児を育てるストレスで心身ともに疲れ果てていました。川村看護師が子どもたちを外に連れ出し、太田看護師が赤ちゃんをあやしながら室内巡回することで、お母さんは学校行事に参加できました。(こどもたちの遊び相手になってくれるボランティア、幼児向けDVDがあれば、少しは気がまぎれるのかもしれませんが)



避難所隣で卒業式「今度はみんなが人の役に立つ人間になって赤崎を立て直そう」

今日は避難所となりの赤崎小学校の卒業式でした。校舎は2階まで津波が流れ込んで使えないため、避難所横の保育園園庭で屋外卒業式になりました。被災時、生徒全員が先生方と一緒にこの赤崎避難所に逃れたため、6年生27人全員が無事に卒業できました。自らも避難所生活している校長先生が卒業生に「津波でたくさんの人に助けもらった。今度はみんなが人に役立つ人間になって赤崎を建て直そう」と呼びかけ、参加した父母や住民も大きな拍手で応えました。



午後は、遠藤介護福祉士の体操は赤崎避難所の日課になりつつあります。今日の大広間の体操には30数名が参加してくれました。「明日もまた頼むね」と声がかかっています。

足湯ですっきり (坂病院チーム)

避難者の方は2週間以上お風呂に入れていなくて、足湯のサービスに「とても気持ち良かった」「気分はお姫様気分です」などと話していました。体も心もリラックスして、誰もが笑顔で避難場所にもどって行きました。

北海道勤医協札幌病院看護師の大野由佳さんは、「被災地にきて、自分に何ができるのだろうかと心配していましたが、避難所の方にこんなに喜んでいただけてほんとによかったわ」と笑顔で話していました。

(宮城民医連「災害復興ニュース」から)



道内公営住宅の被災者受入れ 137世帯に (詳細は下記を) 生活保障の拡大・相談体制の整備を求めよう

札幌市	78	江別市	3	千歳市	1	北広島市	4	恵庭市	1	小樽市	6
蘭越町	1	岩見沢市	1	赤平市	1	苫小牧市	3	登別市	2	白老町	1
日高町	2	新冠町	1	美瑛町	3	留萌市	4	函館市	21	北斗市	1
江差町	1	帯広市	1	滝上町	1						